



～2020年、新規国際技術協力プロジェクト始動！～ ミャンマー・マンダレー市

作成：上下水道局海外事業課

発行日：令和2年9月30日



2020年、上下水道局海外事業課は、ミャンマー・マンダレー市で水道供給事業に関する新規の技術協力を開始しました。

ミャンマー・マンダレー市は、人口約120万人、ミャンマーではヤンゴン市に次ぐ第2の都市です。人口は年々増え、急速な発展を遂げています。

一方、水道分野では、市内の水道普及率は70%程度で、24時間連続給水も一部の地域でしか達成していません。また、停電等による断水もしばしば発生しており、**安定した水道サービスにはほど遠い状況**です。



現在、マンダレー市では、約9割の水源を井戸水に頼っていますが、増大する水需要に対応するため、河川を水源とする大規模な浄水場の整備が喫緊の課題です。そこで、既存の浄水場を大幅に改修し、先進国の大都市で主に採用されている**急速ろ過方式**という処理方式を用いて、処理能力の大幅な向上を目指すことになりました。



事前調査の様子
ろ過砂の確認
(2018.10)

しかし、マンダレー市には急速ろ過方式に関する十分な運転管理ノウハウがなく、期待した量の浄水処理ができていない状態でした。

そこで、以前より技術協力の実績があり、急速ろ過浄水場の運転管理に豊富なノウハウを持つ本市に対して、国際技術協力の要請がありました。本市職員による数度にわたる事前現地調査を経て、本年より3年間にわたり、「**マンダレー市における安全で安定した水供給能力向上プロジェクト**」(JICA 草の根技術協力)を実施することになりました。



本プロジェクトのキックオフセミナーの様子がミャンマーの地元紙で大きく紹介されました。現地の期待が伺えます。

本年1月、プロジェクトの**キックオフセミナー**がマンダレー市で開催されました。席上で、本市中西上下水道局長とイェ・ルイン・マンダレー市長により事業実施の覚書が取り交わされ、本事業が正式にスタートしました。



本プロジェクトを通して、マンダレー市との信頼関係を一層深め、本市独自の高度浄水処理技術「U-BCF」の普及など新たな水ビジネスの案件形成につなげていきたいと考えています。

報告者：上下水道局 海外事業課 海外事業担当係長 笹田 和宏



世界平和パゴダ

門司港にある「世界平和パゴダ」をご存知ですか。ミャンマー仏教会から認められた日本唯一のミャンマー式寺院です。みなさんも世界平和を願ってお参りされてはいかがでしょうか。駐車無料、拝観料200円です。今週末、コロナ終息を願ってお参りして来ようかな。



2016年まで世界平和パゴダでお勤めされていたウィマラ僧侶（前列左から2番目）
(2020.1.31撮影 於：マンダレー僧侶大学)